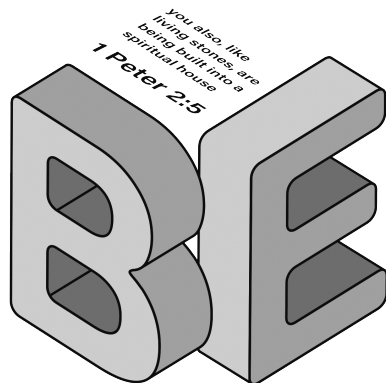


YOUTH MANNA



あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。

(ペテロの手紙第一 2章42節)

2025/7/21(月)

ホセア 5章

- イスラエルとエフライムは、どのように主を裏切ったのだろう。(1,3-4,7節)
- イスラエル、エフライムのうちには「姦淫の霊」があった(4)。では、キリストを信じる私達のうちには何があるかな？(1コリント3:16)

★私達はイスラエルの民を教訓に、悪い習慣を捨てて歩む必要がある。でも、それは自分の努力や何かきまりを守ることで達成されない。それらに加えて、私達にはキリストを信じる信仰が必要だと聖書は言っている(ガラテヤ2:18-20)。「信仰によって新しくされ続ける」ってどういうことなんだろう？考えてみよう。

2025/7/22(火)

ホセア 6章

- 1-3節では、神様をどのような方として告白しているかな？
- 「主を知る」とは、神様を個人的な関係で知ることを意味しているよ。神様との親密さはどのように培われていくだろう。考えてみよう。
- 4-11節から、イスラエルがどれほどひどい状況だったかが読み取れる。偶像崇拜に加えて、祭司たちは政治的腐敗にも手を染め、多くの人々が殺されたんだ。それでも神様はあきらめずに語り続け「民が元どおり」に回復することを願っている方なんだ(11)。この世界で、神様の心を知ってとりなし祈る者となろう。

2025/7/23(水)

ホセア 7章

1-7節の「彼ら」とは6章と同じく祭司たちを指しているよ。ホセアの時代、実に12年間で4回もの暗殺が行われ王が代わっていった。その裏で陰謀を企てていたのが祭司でもあったんだ。7節を読んで、主を呼び求めず、この世のやり方だけに頼ることがどのようなことなのかを考えてみよう。

(エフライム＝イスラエルのこと)
イスラエルは神に頼るよりも、エジプトやアッシリアとの外交政策に頼っていたよ。ここにはイスラエルが高慢であったことが書かれているけれど、これは私たちと無関係のことではないね。心の高慢は、生き方の面でどのように表れるだろう。

2025/7/24(木)

ホセア 8章

- この箇所の主の宮の上には、何がいたかな？1節
- このときのイスラエルは何を信仰していただろう？6節
- この箇所は、神様のことを遠ざけたイスラエルに神様が怒っている箇所だよ。このときのイスラエルはバアルの仔牛を信仰していて、神様にささげ物もしないし王様も勝手にきめていたんだ。私たちは弱いから目に見えるものに頼ってしまいがちけれど、神様は目に見えないけれどいつも助けてくれているんだ。目に見えているものに惑わされないように祈ろう！

2025/7/25(金)

ホセア 9章

- 10vを読もう。神様がイスラエルをどれほど愛しておられたか、書いてあるね。どのように見ていたと書いてあるかな？
- 10v後半の表現から考えると、民は神様の愛に応えていただろうか？
- 民は自分に得になるためなら他の偶像も利用した。神様なしでも大丈夫じゃん、と思うことある？良いものはすべて神様が与えてくれることを確認しよう！

2025/7/26(土)

ホセア 10章

神様がイスラエルの罪や悪いことを一つ一つ挙げて明らかにしている。もちろん神様が懲らしめるのは、ただ苦しめることが目的ではないよ。
イスラエルの人々が自分のしたこと、罪に気づくために、そして神様のもとへ立ち返ることができるように人々の罪を告発したんだ。
もともと、北イスラエルも南ユダの国も神様は誠実に神様の目的のために仕えるように役割を与えていたのだけど、自分たちが成功するために自分たちの力を頼ってしまった。
私たちは神様からどんな役割をもらっているかな？それを神様に頼ってやっていこう！もし、神様を大切にできていない部分に気づかされていたら悔い改めて、神様に立ち返ろう！

2025/7/27(日)

ホセア 11章

神様とイスラエルの関係はどのような関係として書かれているだろうか？
神様は、イスラエルを「子」として愛し、出エジプトや荒野でも恵み深く導かれました。しかし民は神様を離れ、異教の神々に従いました。それでも神様は民を見捨てず、怒りの中にも深いあわれみを注ぎ、再び回復を約束されました。
背く者にさえ変わらぬ愛を示される神様の愛の深さを思い巡らしましょう。